

## 「生協が行う SDGs の取り組みについて」

安 部 芳 晴 (山形県生活協同組合連合会 専務理事)

今日は、生活協同組合が行う SDGs について皆さんにお話しします。

### 最初に SDGs とは

SDGs は、2015 年、国連サミットで決めた、世界を変えるための 17 の目標の略称です。期間は 2016～2030 年までです。スライドをみてください。17 個のアイコンが、SDGs の 17 項目を表しています。世界中の色々な問題を 17 の項目に分けて、2030 年までに達成を目指しています。具体的には、例えば貧困無くすを表すアイコンは 5 番目です。エネルギーの問題、資源の問題であれば 7 番。10 番目は、人や国の不平等をなくそう、生産者責任、12 番のつくる責任つかう責任、13 番目は気候変動の対策。14 番は海や陸の豊かさを守ろう、16 番目に平和と公正をすべての人に等です。今、これらの目標に沿って生活協同組合だけではなく、世界中の企業が SDGs の目標達成のために取り組んでいます。私の襟のバッジは SDGs のバッジです。

### 生協で使う言葉

生協が行う SDGs の具体的な取り組みを紹介します。その前に生協の独特の言葉を説明させていただきます。県内の生協は、お店（スーパーマーケット）を持っている所もあれば、お店を持たない所もあります。生協は、このお店という言葉は日常的には使いません。くらしのセンターまたは組合員のセンターと言います。くらしのセンターは商品の販売だけでなく、組合員が集まってきて会議の開催や、文化的な交流、あるいは若いお母さんたちが集まってセンター2 階ホールで子育てを学ぶ活動なども行われます。そのためくらしのセンターという言い方をします。売上という言葉も生協は使いません。売上高のことは供給高と言います。利益という言葉は、生協は利益を求める団体でないので、剰余という言い方を致します。前後しますが、お客様ではなくて、生協に出資して利用していただける『組合員さん』と言います。共同購入という言葉も出てきますが、組合員さんが複数人で班を作って、商品を購入するような形態です。個配、もしくは宅配。組合員さん個人の所に、注文いただいた商品を届ける利用形態のことを言います。

### 住み続けられるまちづくり

東日本大震災の生産者と消費者が手を組んで商品開発した、「古今東北」を紹介します。東北の生産物を利用して商品化し、生協のお店又は宅配で提供する商品のブランドです。これも SDGs の「住み続けられる街づくり」や、パートナーシップの取り組みです。

### 生協と再生エネルギー

生協は、2017 年から電気の小売事業を行なっています。その電気は生協が建設した発電所の電力や太陽光発電の電力を東北電力や東京電力に売却、その電力を電力会社の送電設備を使用し組合員に提供します。

### 生協が行う貧困と格差への支援

「格差と貧困拡大の中で、支援する取り組み」を行っています。子どもの貧困の問題は、いろんな要因があり、一気に解決は困難です。生協は支援の一環で、「子ども食堂」の運営を始めました。現在山形県内には、生協の他 20 の団体が「子ども食堂」を運営しています。夕食を月 1 回、食事がお母さんと一緒に取れない、お母さんが働きに行き一人で食べる子どもや、一人暮らしをしている高齢者に提供しています。また、フードバンクは、一般の家庭で消費しきれない保存食品を提供してもらい、地域の社会福祉協議会を通じて必要とする家庭に食品を分配します。フードドライブは、生協の暮らしのセンターで買った食品をその場で提供してもらい、必要な方々に分配します。去年の 12 月から山形の生活協同組合共立社で始めました。

## 生協が行うユニセフ活動

生協は、世界の子どもたちの貧困や飢餓根絶、質の良い教育の SDGs の目標達成のため、ユニセフ、国際児童基金への募金活動に取り組んでいます。世界の中には、生活用の水を、家から遠く離れた水源まで汲みにいくため、学校に行けない子どもを減らすための運動です。運動は、募金でお金を集めて、それらの地域に井戸を掘って、水汲みの労を少しでも減らす取り組みとして行われています。東北の生協は、95年にはインド、2005年よりネパール、2014年からは東ティモールに募金を贈っています。募金は、街頭募金、あるいは、生協のセンターに買い物に来る方にレジで募金してもらい、また、宅配の申し込み用紙に募金という項目設けて募金をしてもらいます。

## 生協が行う高齢者支援

### ①移動店舗

高齢者支援の一つ、移動店舗（せいきょう便）です。これは生活協同組合共立社が現在4台のトラックで13市町村を週1回巡回しております。2016年のデータで利用者が3,658人、月525万円の利用。

### ②御用聞き

くらしのセンターの近くに居住する高齢者から必要な物を電話で注文いただいて届ける。

### ③安否メール

商品等の配達の際に、高齢者が元気かどうか確認し、その方のご親族に安否メールサービス実施しています。

### ④夕食宅配

「コープくらしすけあいの会」を組織し、一人暮らしの高齢者のために掃除や庭仕事、除雪等を組合員同士が助け合って行っています。

### ⑤老後のための住まいの提供

山形県生協連に加入している高齢者福祉生協、酒田健康生協、医療生協やまがた、生活クラブやまがた有料老人ホームとか介護療養型老健施設、運営しています。

## 生協が行う子育て支援

子どもに料理を教える、キッチンシリーズの取り組み（庄内浜で地引網を行い獲れた魚を料理する体験や絵本を読んで、出てきたお菓子を作る体験等）、若いお母さん方が子育てについて学ぶ、ボランティアが子どもに宿題を教える、組合員が講師となって行う書道教室、おもちゃ病院の運営等を行っています。

## 生協とそれ以外の団体と共同で行ういつまでも住み続けられるまちづくり

### ①各団体との共同事業

置賜地方では、置賜自給圏推進機構、置賜の3市、米沢、長井、南陽、それから5町、小国、飯豊、白鷹、高島、川西町で食品とエネルギーと介護医療について自給する構想実現にむけて取り組まれています。庄内地方では、各団体と生協が庄内まちづくり協同組合「虹」が、老人施設「こころ」の高齢者の生活を支援するという取り組みがなされています。

### ②災害時の支援

自治体と生協が災害協定を締結し、災害時に食品や生活物資を提供します。加えて、災害時募金活動を呼び掛けています。

### ③地域見守り

生協の配達トラックが地域を走る機会を利用し、地域の子どもや高齢者の見守りをする。

### ④高齢者のたまり場運営

一人暮らしをしている方は、なかなか人と話す機会がないので、一緒に集って交流するための場所の提供や運営する取り組みを行っています。

### ⑤墓地の運営

生活協同組合共立社が庄内地域に共同墓地、「協同の苑」を持って運営しています。

## 生協が行う平和のための運動

SDGs の 16 番目、平和と公正をすべての人に、生協はずっと平和の取り組み行っています。ヒロシマ平和行動、沖縄戦跡めぐりに、組合員が実際に行って参加し学びます。平和でなければ生協は成り立たないとの教訓から戦後一貫して続けてきた取り組みです。

## 生協の今後の課題

### ①非常に格差とか貧困の問題、地域格差

競争が行き過ぎたことによる原因で格差が生れています。その対極を成すのが生活協同組合、あるいは協同組合です。助け合って、あるいは行政や地域のいろんな団体と協力しながら、地域づくりの活動をすすめる。

### ②事業運営を継続するための経営

くらしのセンター運営や宅配等、支援をする活動を含め事業的に黒字で運営することを目指す。

### ③生協で働く次世代確保のため

若い方々に協同のすばらしさを知らせ、実感してもらって、生協や他の協同組合に就職先として選ばれる取り組み。

以上